

令和3年度第2回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和3年7月7日（水） 18時～20時30分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数20名に対して16名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ

(会長)

お足元が悪い中、出席いただき感謝申し上げます。今日と来週は、1年の中で最も大事な会議となっており、約60の事業の評価をしていただく。皆さんから遠慮なく御質問いただきたいと思っているので、よろしくお願いします。

3 議事

(1) 協議事項

ア 重要業績評価指標（KPI）の達成状況について（基本目標1・2）

(資料2：各課より説明)

基本目標1【No.3～9について】

(委員)

No. 6とNo. 8について、観光交流施設であるが、同じ分野の利用者数が、分けてシートに記載されているが、何か理由があるのか。いしのまき元気いちば、かわまち交流センター、石ノ森萬画館、一緒にしても良いのでは。

(商工課)

第2期中心市街地活性化基本計画の流れで、いしのまき元気いちばとかかわまち交流センターは一つの括りでかわまちエリア、石ノ森萬画館は観光施設ということで分けている。

(委員)

No. 6について、令和3年度の取組で、「本広場は朝市などのイベント会場での活用を予定しており」とあるが、この「朝市など」の「など」は、何を指しているのか。

No. 9について、令和3年度の取組で、「観光施設や飲食店等と連携し」とあるが、周辺は住吉公園等だいぶ改善され、つり客も増えてきている。制約は有るのかもしれないが、さらに交流を図るという観点でいくと、若い人だけではなく、歴史的なものや史跡等から熟年層をターゲットとした部分を考慮してはいかか。また、みちのく潮風トレイルを新たな石巻の展開とするとか、そういったことは考えないのか。

(商工課)

「朝市など」という部分については、現在整備中のかわまち交流広場では朝市だけではない各種イベントが開催できる。また、広場だけではなく堤防を活用したイベントも考えられる。一つ一つ挙げれば良かったのだが、「朝市など」とまとめさせていただいた。

観光施設や飲食店等と連携というところでは、今年の3月に配信された地方創生RPGアプリを活用し、実際にお店に行って買い物をし、クーポンを見せると各店舗から特典を受けられたりと、ゲームを楽しみながら中心市街地をまわってもらう。市内全体にというところでは、ゲームの舞台を市内全域に広げ、市内の観光スポットをいれている。もう少し広げたいと考えており、コロナ収束後に手を挙げた店舗等と連携できるよう準備を進めている。

(委員)

朝市が駅前に移ると新聞で見たが、この数字は駅前に移ったあとも含めた数字なのか。

(商工課)

数字はかわまち交流広場でのものであり、そこで開催されるイベント全般を含めたものであるため、朝市に限ったものではない。

(会長)

朝市は昨年まではかわまちのバスロータリーで、始発のバスが出る前の時間を使って開催していたが、駅前の市役所前のスペースが整備されたことから、出店者からもう一度駅前でやってみたいとの強い希望があった。そこで、今年は1年間駅前で開催し、どちらが効果が高いか調べてみるということもしてみる。現在整備中のかわまち広場が完成すると、広い広場ができるので、まちなかのイベント等も行えるのではないかと思う。

総入込数を増やすということは、まずはコロナを克服するという大きなテーマがある。官民あげて取り組まなければならない。

(委員)

石巻南浜震災復興祈念公園がオープンしたが、電車で来た方が南浜に行く周遊のバスは運行しているのか。

(地域振興課)

山下・門脇線という名称で、現在6便運行しており、公園のオープンにあたって2便増やしている。駅から山下方面、南浜、元気いちばを通る一方向周りのルートである。

(副会長)

橋ができたことで、大型バスがアイトピア通りに入れないということを知った。規制について把握していないバス会社もあった。その辺の周知についてと、この取組は規制を考慮した上でのものなのか。

(商工課)

交通規制については、課題として捉えている。目標については、規制も考えた上でのものとなっている。その部分が解消されると、さらに交流人口の増加につながると考えてい

る。

道路については産業部だけで解決できるものではないので、警察や道路管理者である建設部や県などと広く検討していきたい。

(副会長)

そのようなことはぜひ周辺にもお知らせいただいて、民間とも協力し取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

基本目標 1 【No.10～17 について】

(委員)

工業港方面の防潮堤関係が他の海岸線と比べて低く作られていると思う。もう少し強化できないのか。

(危機対策課)

避難ビルを整備することで、避難困難区域の減少につながると考えている。ポンプ置き場や排水場等、公共施設についても、指定できないか現在協議を進めている。少しでも多く整備につながるようにしていきたい。

民間の事業所の整備については、新規の部分が落ち着いてきたこともあり、難しさはある。避難ビルやタワー以外にも含めて、総合的に検討していきたい。

(委員)

工業港方面も復旧したときに、今の防潮堤だけでは足りないのではと危険に感じるので、もう少し積極的に整備していただきたい。

(委員)

津波避難タワーの関連で、放射性物質に対する防御の構造やシステムはどのようなになっているのか。

(危機対策課)

放射性物質を加味した上での整備にはなっていない。原子力災害での避難については、屋内退避施設として、原発 5 km 圏内に、国の補助を受け市内で 6 箇所整備している。

放射性物質の防御に対する考え方としては、コンクリート製の堅牢な建物の中に屋内退避ということがあるので、学校等の避難所に屋内退避していただくということになる。

(委員)

流れとしては理解できるが、現象としてはあり得ることなので、今後の課題として、コンクリートでなくても一時的な防御なら他にも物質があると思うので、検討をしていた方がよいと思う。

(副会長)

地域の防災訓練等でも避難タワーを使えるのはとても良い計画だと思う。津波避難ビルに逃げるということについて、サイン計画を実施していると思うが、それを見たときに、例えば元気いちばにいる方が避難するときに、日和山まで行けないときは復興住宅に逃げて良いというサインになっていた。住んでいる側は分かっているのか。また、民間の企

業の避難ビルもあるので、その辺のサインと避難ビルとの役割と、それからお互いを知るということも大事だと思う。

(危機対策課)

今年度、中央の復興住宅の自治会で防災訓練の話が進んでいる。防災士の方に出向いてもらったりして、地域の方の受け入れについて、連携して迅速な避難につながるよう、周知・説明を行っていく。

(委員)

空き家対策は、これからより重要な課題になると思う。個人所有の空き家が近隣へ悪影響を及ぼしているという話を聞く。空き家の利活用だけではなく、その空き家で迷惑を被っている市民の方への対応も大事だと思う。予算がとても大きく感じるが、改修は少ない。予算を、例えば解体費用の補助金に回すとか、柔軟な活用を意見として述べさせていただく。

(住宅課)

個人所有というのは一番ネックにはなっている。行政代執行という最終手段はあるが、細かい条件をクリアしなければならなかったりと、とても時間がかかる。こういったことも含めながら、対応していく。

(委員)

家族であっても、末裔になっていくと相続がうまくいかない。法務局も絡む話だとは思いますが、石巻は空き家がたくさんあると思うので、早いうちに対応していく必要があると思う。

(委員)

移住対策に係る空き家の利活用について、働き手、若者をターゲットに石巻に呼ぶという発想があるかと思うが、首都圏で退職してふるさとにUターンしたいが、誰も身寄りはないという場合もある。シェアハウスの対象を若者だけに限らず、あり方を考えていくべきでは。例えば、高齢化が進んで一人暮らしをしている方が何を求めているかといえば、話し相手が欲しいのでは。その辺を考慮すれば、移住件数をもっと伸びるのではないか。

(地域振興課)

移住のターゲットは、若い人だけと絞っているわけではないが、問い合わせは若い方からのものが多いというのは事実。ただ、リタイアしたあとに悠々自適に暮らしたいという問い合わせもあるので、あらゆる年代に対応できるようにしていきたい。その中で、高齢者のシェアハウスというのはこれまで考えたことのないアイデアである。委託業者とも実現可能かというところも含めて今後検討していきたい。

基本目標 2 【No.18～26 について】

(委員)

No. 21 について、平成 27 年度と比べると実績が 10 分の 1 になっている。コロナ

の影響等あるかと思うが、県内のほかの自治体や全国と同じ様な規模感の自治体と比べてどうなのか。また、創業が盛んな福岡等、そういった自治体と情報交換等はしているのか。

(産業推進課)

当初は創業を考えている方が多かったが、最近は相談件数が少ない。水準として他の自治体との比較はしていない。先進自治体との情報交換はしていないが、色々な事例を今後取り入れていきたい。

(委員)

No. 20について、会員が減っている状況で、中小企業においても福利厚生には目を向けてきているが、非正規の方々には行き届かないとも思う。会員の枠の中に非正規の方々を入れられるのか。また、零細企業についても拡大できないのか。

(商工課)

我々も認識している。2市1町で取り組んでおり、産業部長が理事となっているので、役員会の中でも拡大できないかということも議題にしていきたい。

周知については、行き届いていないことは感じている。市報に載せているが、隅々まで読まれているかというところで、足りないところはあると考える。勤労者福祉サービスセンターの職員が各企業を訪問していたが、コロナの影響があったので、収束後に企業訪問等周知拡大を行っていきたい。

基本目標2【No.27～33について】

(委員)

萬画館について、コロナ禍で集客は難しいと思うが、関連するモニュメントを施設周辺に設置すれば来館者も増えるのではないか。

(観光課)

コロナだけを理由にできないので、様々な手法を検討し、情報を発信して取り組んでいきたい。

(委員)

オープンデータ活用事例集について、非常に効果が上がっていると感じる。震災ナレッジ証言や震災の見える化等、他の国や地域にも非常に役立つ情報として生かされるものだと思うので、多言語化をするのが良いのではないか。津波であれば、インドネシアやその周辺の地域は何度も被害を受けているので、石巻の記録は非常に貴重なものではないか。別の視点から見ると、小中学生の学習効果を高めるような、石巻メソッドのようなものを開発できたら良いのではないか。

(ICT総合推進課)

当市は全国全世界から御支援いただいているので、貴重なデータを共有し、大きな災害に備えていくということは、非常に大事なことだと思う。翻訳を市独自で行うのはデータ

が膨大すぎて難しいかと思うが、オープンデータ化することで、利用者が翻訳してくれることもあると考えられる。様々なことに活用できるので、データの整備を迅速に進めていきたい。

(委員)

コロナの影響でだいぶ入場者数が少なく大変であると思うが、こういうときこそ地元の子どもたちや地元の人に見てもらおう仕掛けができないかと思う。例えば涌谷町だと天平の湯の優待券を全戸配布したり、できるだけ地元の方に来ていただくきっかけ作りをしている。学校単位等、この機会にこそ地元の子どもたちに見てもらって、少しでも賑わいを作れたら。

(観光課)

地元一丸となって取り組んでいくことが大切だと考える。今年は開館20周年ということで、色々なイベントを予定しているが、地元の方々に来ていただけるような仕組みを考えていくことが必要だと考える。

(委員)

道の駅来場者数について、道の駅は慣れてくると新しい魅力が欲しくなる。道の駅の近くにある梨の木水門は白鷺や白鳥など、子どもにとって非常に良い自然観察の場になっている。アクセス道路や休める場所を設置すれば、親子で楽しめる水辺の野外観察所になる。プラスアルファの魅力になると思うので、意見として述べさせていただいた。

(河北総合支所地域振興課)

参考とさせていただきます。

イ 基本目標における数値目標の達成状況について(資料6:SDGs地域戦略推進室長)

(委員)

基本目標1で、完了済の復興事業、復興の進捗度意識とあるが、これは低い数値である。それなりに現場では頑張っていると思うが、市、県、国の事業が輻輳していて調整に時間を費やしており、そういうことが原因で見た目にはまだ済んでいるとは言えない。半島部の拠点エリア整備事業は達成となっているが、私が住んでいる鮎川では、建物等は完了となっているが、キャッチャーボートは未だに修理中である。こういう場合は、達成ではなく未達成になると私は思う。これからも頑張っていたいただければと思う。

(事務局)

正しくそのとおりである。完全に終わっているという現場はまだ少ない。少しずつ残っているという現場がまだまだある。その結果が、完了済の復興事業の割合も市民の進捗度意識も目標とした値に届かなかった要因になっているものと考えます。貴重なご意見ありがとうございました。

(委員)

基本目標3について、これからは東京圏というよりも仙台圏も大切ではないか。東京圏よりも仙台圏も含めたところに転出している方のほうがはるかに多いのではないか。そういったデータはあるのか。

(事務局)

データは市のホームページにも掲載されている。本市の転入転出状況という1年間分をまとめたものである。昨年仙台市に対しては361名転出の方が多い。東松島市に対しては77名転出の方が多かった。宮城県内の他の市町村と比べると、455名転出の方が多かった。東京・埼玉・神奈川・千葉の東京圏に対しては、194名転出の方が多い。山形県に対しては19名転出の方が多い。関東、東北エリアには転出の方が多い。他の都道府県に対しては、131名転出の方が多い。県内・県外合わせると586名転出の方が多かった。

(委員)

仙石東北ラインができたのは良いが、アクセスが悪い。それならば本数を増やしてもらいたいと思う。

4 その他

(委員)

達成というところで確認したい。復興住宅等は事業的には達成となっていたが、熱海の件もあり、高台移転等、盛り土の部分を市として確認していただきたい。入居している高齢者の対策も早めに必要と考える。

借地料について、10年経過すると10倍になるという通知が市から来ている。そうなったときに、手放さなければならないといったケースが出てくると思われるが、そういう人たちの対策として市としては何か考えているのか。早めの対策を考えていただきたい。

(事務局)

現行制度を改めて確認した上で、今後の対応をどのように考えているのか次回の会議でお話させていただきたい。

5 閉会あいさつ

(副会長)

今回も委員の皆さんの御協力ありがとうございました。あと1回、評価が残っておりますので、次週もまた皆さんの御協力をお願いしたい。今日は本当にありがとうございました。

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和3年7月7日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	欠席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	欠席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：齋藤様）	出席
6	岩井 美喜子	石巻市町内会連合会女性部会	出席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	出席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	欠席
10	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
11	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
12	佐藤 尚美	北上地区住民代表	出席
13	杉浦 隆浩	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	出席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	出席
19	堀井 栄	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

アドバイザー

	鎬木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席
--	-------	--------------	----